

平成27年度第1回 鳥取県手話施策推進協議会 次第

日時：平成27年11月26日（木）

午前10時～正午

場所：県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開会

2 障がい福祉課長あいさつ

3 議事

（1）鳥取県手話施策推進計画に基づく施策の取組状況について

（2）今後の取組について

4 その他

5 閉会

鳥取県手話施策推進協議会 委員等名簿

区分	所属等	氏名	備考
当事者団体	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会事務局長	石橋 大吾	協議会長
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会事務局次長	戸羽 伸一	
関係団体等	鳥取県手話通訳士協会	国広 生久代	
	鳥取県手話サークル連絡協議会	藤井 貴子	
	あいサポートメッセンジャー	今西 賀子	
事業者	鳥取県厚生事業団(障害者福祉センター友愛寮寮長)	小松 三恵子	御欠席
	鳥取医療センター事務部長	門田 陽一郎	
教育	鳥取県体育協会専務理事(前鳥取聾学校校長)	後藤 裕明	

オブザーバー	鳥取市障がい福祉課長	富田 恵子	御欠席
	岩美町福祉課長	鈴木 浩次	
	伯耆町福祉課長	谷口 仁志	御欠席
	湯梨浜町教育委員会教育長	土海 孝治	御欠席
	鳥取労働局職業安定部職業対策課長	野田 千卯	
	NHK鳥取放送局企画編成部副部長	八木 智一	御欠席
	鳥取県病院局長	福田 健	
	鳥取県警察本部教養課長	由澤 徳司	
	鳥取県立鳥取聾学校長	藤田 則恵	
	日本財団ソーシャルイノベーション本部上席チームリーダー	石井 靖乃	代理:筒井 智子

事務局	鳥取県障がい福祉課長	小林 真司	
	鳥取県障がい福祉課社会参加推進室長	鈴木 俊一	
	鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課長	足立 正久	

平成 27 年度第 1 回 鳥取県手話施策推進協議会
資料目次

- 1 鳥取県手話施策推進計画に基づく手話施策推進状況について
・・・ P 1 ～ P 2
- 2 鳥取県手話施策推進計画の数値目標項目に係る実績 ・・・ P 3
- 3 手話関連基本データ ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 ～ P 6
- 4 「第 2 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催について
(結果概要)・・・ P 7 ～ P 8
- 5 県外における手話言語条例に関する取組・・・・・・・・ P 9
- 6 平成 2 8 年度当初予算要求 (案)・・・・・・・・ P 1 0 ～ P 1 2

(別冊) 鳥取県手話施策推進計画 [平成 27 年 3 月策定]

鳥取県手話施策推進計画に基づく手話施策推進状況について

計画	【実施施策】	【予定施策】	平成27年度取組状況
(1) 手話の普及、ろう者に対する理解促進			
ア 地域、職場等における手話の普及			
【実施施策】			
	・県民向けミニ手話講座の開催		平成26年度から夏休み親子講座を開催(中部3回、西部3回)。 ・平成26年度:36回開催・484人受講 ・平成27年度10月末:18回開催、227人受講
	・手話学習会開催事業費等補助金		平成27年度から、企業等の事業者に加えて、10人以上の手話学習グループを補助対象に追加。学校PTAや地域住民を対象とした手話学習会が開催されるなど、地域や職場で手話を学ぶ取組が拡大している。 ・平成26年度:11件申請、36回開催・471人受講 ・平成27年度11月時点:14件申請、36回開催、783人受講
	・手話サークル等助成事業費補助金		鳥取県手話サークル連絡協議会に補助金を交付し、活動を支援。
	・手話パフォーマンス甲子園の開催		全国から集まった高校生チームが手話によるパフォーマンスを披露。幅広い世代に対する手話の普及につながった。 ・第1回大会:平成26年11月23日開催(鳥取市:県民ふれあい会館) 全国から41チームが応募、20チームが本選出場。 ・第2回大会:平成27年9月22日開催(米子市公会堂) 47チームの応募があり、20チームが本選出場。
	・手話啓発イベントへの助成		鳥取県聴覚障害者協会が開催した「2015年度鳥取県手話フォーラムinゆりはま」の運営費に対し助成を行った。 ・平成27年11月3日(火・祝)、ハワイアロハホール ・内容:講演、アトラクション(鳥取聾学校による演劇発表等)
イ 教育における手話の普及			
【実施施策】			
	・手話普及支援員派遣制度(手話普及コーディネーターの配置を含む)		手話普及コーディネーターがコーディネートを行い、各学校へ手話普及支援員を派遣し、学校での手話学習を協力サポート。
	・手話ハンドブック等の手話学習教材の活用推進		小学校新1年生分のハンドブックを増版・配付。
	・聾学校との交流学习の推進		聾学校のある地域の学校との交流や在籍幼児児童生徒が居住する地域の学校との交流学习を実施。
【予定施策】			
	・学校における手話に関する情報を発信する窓口役の決定		全小・中・高等学校において窓口役を指名(各学校長が指名)し、事業説明会を実施(5月に3圏域で実施)。
ウ 行政、公共交通機関等における手話の普及・情報発信			
【実施施策】			
	・行政職員向け手話講座の開催		鳥取県職員人材開発センターにより、県・市町村職員向けの手話講座を開催。 ・入門編:6~9月 東中西 各12回 ・基礎編:6~8月 東中西 各10回
	・知事定例記者会見・議会中継等での手話通訳者配置		知事定例記者会見、議会中継等に手話通訳者を配置し、県政情報発信の情報保障を行っている。
	・[再掲]手話学習会開催事業費等補助金		[再掲] 平成27年度から、企業等の事業者に加えて、10人以上の手話学習グループを補助対象に追加。学校PTAや地域住民を対象とした手話学習会が開催されるなど、地域や職場で手話を学ぶ取組が拡大している。 ・平成26年度:11件申請、36回開催・471人受講 ・平成27年度11月時点:14件申請、36回開催、783人受講

(2) 手話を使いやすい環境整備

ア 手話通訳者の養成、派遣事業等の充実

【実施施策】

・手話通訳者養成研修・派遣事業

○手話通訳者養成研修修了者数
・平成26年度修了者数:通訳Ⅰ 15名、通訳Ⅱ 10名
・平成27年度受験者数:通訳Ⅰ 17名、通訳Ⅱ 13名
○手話通訳者派遣件数
・平成25年度 693件
・平成26年度 1,112件
・平成27年度4～9月 455件

・手話通訳者トレーナーの配置

手話通訳者トレーナー稼働件数
・平成26年度 61件
・平成27年度9月末 48件

イ 聴覚障がい者相談事業の充実

【実施施策】

・聴覚障がい者相談員

鳥取県聴覚障がい者センターにおける相談実績
・平成25年度 2,409件
・平成26年度 2,380件
・平成27年度4～8月 1,130件

【予定施策】

・手話学習者等による見守り手話ボランティア

未実施。今後検討。

ウ 鳥取聾学校・難聴学級における「手話による教育」の推進

【実施施策】

・鳥取聾学校地域支援部の充実

保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、その他各種団体からの要請に応じて研修会開催等の支援を実施。

・手話検定等受験料助成制度

教職員の手話検定料及び通信教育受講料の補助。
・平成26年度 聾学校教職員の受験者数 70人
聾学校以外の教職員 10人
・平成27年度 聾学校教職員の受験予定者数 56人

・教職員の聴覚障がい理解と手話技術の向上

定期的に研修会(月1回程度)や手話講座(月2回程度)を開催。

エ 新しい手話コミュニケーション環境の創出

【実施施策】

・遠隔手話通訳サービス(+代理電話支援サービス)

平成25年度から実施している遠隔手話通訳サービスに加え、平成27年度から電話リレーサービス(代理電話)を開始。電話リレーサービスの利用が多く、難聴者・中途失聴者からも利用申込みがある。
・遠隔手話通訳サービス利用件数
平成25年12月～平成27年9月 128件
・電話リレーサービス利用件数
平成27年4月～9月 143件

【予定施策】

・ろう者向けICT学習会

・平成27年11月15日、11月23日に、東中西部で開催。各会場において、約10名のろう者に対し、遠隔手話通訳・電話リレーサービスの使用方法を講習し、利用促進を図った。

・[再掲]手話学習者等による見守り手話ボランティア

[再掲]未実施。今後検討。

オ ろう者が働きやすい環境づくり

【実施施策】

・聴覚障がい者就労支援事業

聴覚障がい者が就職活動で面談等を行う場合に、要請に応じて手話通訳者を派遣。
・平成26年12月～平成27年3月 5件(内容:職場見学、面談)
・平成27年4月～9月 6件(内容:職場見学、面談)

カ とつとりの手話の文化的発展

【実施施策】

・とつとりの手話を創り、守り、伝える事業補助金

とつとりの手話(以下「地域手話」という。)の創出・普及、昔の地域手話の保存・伝承を通じて、鳥取県内の手話の文化的発展に資するため、鳥取県聴覚障害者協会が行う取組に対して補助金を交付。
平成27年11月3日の「鳥取県手話フォーラムinゆりはま」において成果発表が行われ、新たな手話表現等が紹介された。

数値目標項目に係る実績

区分	H24	H25		H26	H27		H35目標	備考
登録手話通訳者数	32人	35人	→	41人	43人(H27.10末)	→	65人	H24の2倍
【関連施策】手話通訳者養成研修事業								
手話通訳者設置事業人役	1.52人役	1.52人役	→	5.08人役	4.75人役	→	4.50人役	H24の3倍
手話通訳者派遣件数(団体派遣)	461件	693件	→	1,112件	455件(H27.9末)	→	1,400件/年	H24の3倍
【関連施策】手話通訳者派遣事業								
手話講座等受講者数		1,242人/半年	→	955人/年	981人(H27.10末)	→	2,500人/年	H25並み
※開催回数 39回 72回 53回								
【関連施策】県民向けミニ手話講座の開催、手話学習会開催事業費等補助金								
手話等に対応できる職員が県職員(行政職員)に占める割合			→			→	15%	
【関連施策】行政職員向け手話講座の開催								
学校における手話の取組の実施率			→			→	100%	
【関連施策】手話普及支援員派遣制度、手話ハンドブック等の手話学習教材の活用推進、学校における手話に関する情報を受発信する窓口役の決定								

(参考1) 登録手話奉仕員数 平成26年度：72人、平成27年度10月末：79人

手話関連基本データ

1 鳥取県内のろう者数（推定値）

- ・ 鳥取県内の身体障害者手帳所持者数（聴覚障がい） 2,943名（平成27年3月末）
- ・ このうち、ろう者は約500名と推定

2 鳥取県内の登録手話通訳者数等

- ・ 手話通訳者数 43名（平成27年10月末）
 ※ 平成25年3月：32名 → 平成26年3月：35名 → 平成27年3月：41名
- ・ 手話奉仕員数 79名（平成27年10月末）
 ※ 平成25年3月：53名 → 平成26年3月：58名 → 平成27年3月：72名

3 手話通訳者派遣事業の状況

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	合計
平成23年度	23	22	22	50	43	42	202	55	47	29	23	31	27	212	414
平成24年度	30	18	28	53	37	48	214	53	52	35	27	39	41	247	461
平成25年度	23	40	55	56	54	59	287	75	82	50	52	73	74	406	693
平成26年度	59	62	92	105	90	108	516	145	137	83	67	84	80	596	1,112
平成27年度	62	58	74	75	76	110	455								455

※ 講演会等の派遣のみ。個人派遣は含まない。

（参考）要約筆記者派遣事業の状況

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	合計
平成23年度	2	0	1	8	3	13	27	7	8	8	7	12	4	46	73
平成24年度	1	6	10	10	4	8	39	10	11	6	6	9	9	51	90
平成25年度	2	5	6	10	10	4	37	6	13	9	11	9	9	57	94
平成26年度	6	3	13	17	16	17	72	13	26	8	7	11	9	74	146
平成27年度	5	8	12	8	14	18	65								65

※ 講演会等の派遣のみ。個人派遣は含まない。

4 手話通訳者養成研修等の状況

(1) 手話通訳者登録試験受験者・合格者数

	受験者数	合格者数	合格率
平成24年度	12	3	25%
平成25年度	12	4	33%
平成26年度	17	2	12%
平成27年度	32		

※ 平成27年度の受験者数は申込者数（試験日：12月5日）

(2) 手話通訳者養成研修修了者数

	基本課程 (通訳Ⅰ)	応用課程 (通訳Ⅱ)
平成24年度	7	7
平成25年度	9	4
平成26年度	15	10
平成27年度	17	13

※ 平成26年度～基本課程を通訳Ⅰに改称、平成27年度～応用課程を通訳Ⅱに改称

※ 平成27年度は受講者数

(3) 手話奉仕員登録試験受験者・合格者数

	受験者数	合格者数	合格率
平成24年度	38	10	26%
平成25年度	26	11	42%
平成26年度	42	20	48%
平成27年度	32	11	34%

(4) 手話奉仕員養成研修修了者数

	入門課程 (入門編)	基礎課程 (基礎編)
平成24年度	45	9
平成25年度	76	32
平成26年度	96	44
平成27年度	97	69

※ 平成26年度～入門課程を入門編に改称、平成27年度～基礎課程を基礎編に改称

※ 平成27年度の入門編は受講者数

● ミニ手話講座受講者数

	開催回数	受講者数
平成25年度	12	302
平成26年度	36	484
平成27年度	18	227
合計	66	1013

※ 平成26年度～夏休み親子講座を開催（平成26年度は中部3回・西部3回）

※ 平成27年度は10月末までの実績（全36回（一般27回、親子9回）のうち、18回（一般9回、親子9回）の開催実績）

● 手話学習会補助金の活用実績

	申請件数	開催回数	受講者数
平成25年度	15	27	940
平成26年度	11	36	471
平成27年度	14	36	783
合計	40	99	2194

※ 平成27年度は11月現在の実績（補助上限額：15,000円/回（年6回を上限））

※ 平成27年度～企業等の事業者に加えて10人以上の手話学習グループを補助対象に追加

※ 学校PTAや地域住民を対象とした手話学習会が開催されるなど、地域や職場で手話を学ぶ取組が拡大

● 手話検定受験者数

	5級	4級	3級	2級	準1級	1級	合計
平成21年度（第4回）	37	29					66
平成22年度（第5回）	43	28	15				86
平成23年度（第6回）	23	29	15	3			70
平成24年度（第7回）	7	13	19	8			47
平成25年度（第8回）	19	19	19	6	6	6	75
平成26年度（第9回）	39	38	23	19			119
平成27年度（第10回）	32	43	15	8			98

※ 鳥取会場は平成18～20年度（第1～3回）は未実施

5 遠隔手話通訳・電話リレー

(1) 利用実績

- ✓ 平成27年度～電話リレーを開始したところ、利用が急増（一方、遠隔手話通訳の利用は減少）
- ✓ 難聴者・中途失聴者からも利用申込みがあり、利用者数も増加傾向

	遠隔手話通訳				電話リレー				備考
	利用件数			利用者数	利用件数			利用者数	
	平日	休日	合計		平日	休日	合計		
平成25年度 (12月～)	33件	—	33件	18人	—	—	—	—	12月 遠隔手話通訳サービス開始 県庁、障がい福祉課に端末設置
平成26年度	59件	22件	81件	23人	—	—	—	—	6月 駅・バスターミナルに端末設置 8月 土日祝日もサービス提供開始 12月 県立図書館に端末設置
平成27年度 (～9月)	7件	7件	14件	30人	126件	17件	143件	33人	4月 電話リレーサービス開始
合計	99件	29件	128件	—	126件	17件	143件	—	

(2) 利用先（電話リレー）

宅配業者・日本郵便（再配達依頼）、病院、美容院、ホテル（予約・忘れ物問合せ）、公民館、ガス工事、忘れ物センター、弁当注文、カーディーラー等

(3) モニター登録者数

38名（遠隔&電話 25名、遠隔 5名、電話 8名）（平成27年10月末）

6 手話通訳者トレーナー

(1) 稼働件数

	稼働件数	通訳者	奉仕員
平成26年度	61	139	345
平成27年度	48	40	40

※ 平成27年度は9月末までの実績

(2) トレーナーの主な所感

- ✓ 通訳業務は、それぞれの通訳者が工夫しながら我流でやっている面が強いため、他のやり方（通訳手法だけではなく、通訳場面でのふるまい、（病院診察場面等での）ろう者からの話の引き出し方等も含）・選択肢を示すこと等により、通訳者個々の気づきにつながっている感じ。
- ✓ 現場での実践中に助言等を行うことで、現任研修のロールプレイ等では得がたい気づきもある模様。
- ✓ 手話表現の技術的な問題はもちろん、チームとして通訳をする時の互いのフォローの仕方や通訳を代わるタイミングなど、課題はたくさんある。
- ✓ トレーナーとして現場で感じた課題は、トレーナー学習会や現任研修会で学べるようにしていく。

「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催について

障がい福祉課

全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げその表現力を競う全国大会「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を以下のとおり開催しました。

1 大会概要

- (1) 日時 平成27年9月22日(火・休) 9:30~16:30
- (2) 会場 米子市公会堂(米子市角盤町2-61)
- (3) 主催等 主催：手話パフォーマンス甲子園実行委員会
共催：鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- (4) 内容
 - ア 出場チーム演技(20チーム。手話を使ったダンス、歌唱、演劇、落語など。)
司会：早瀬憲太郎さん(2015年3月までNHK「みんなの手話」に講師として出演)
今井絵理子さん(「SPEED」「ERIHIRO」メンバー、2010年NHK「みんなの手話」司会)
 - イ ゲスト演技
HANDS I G N(ハンドサイン：手話とダンスを融合させたパフォーマンスグループ)
 - ウ 審査発表、表彰、総評
- (5) 来場者数 約1,550名(サテライト会場等を含む。)

2 審査結果

(1) 審査結果

- ア 優勝 奈良県立ろう学校[奈良県](5名：演劇) ※昨年：審査員特別賞
「イマジン」をテーマに、ろうの世界を身体表現で伝え、会場の感動を誘った。



<表彰式>



<演技>

- イ 準優勝 三重高等学校、松阪工業高等学校、相可高等学校[三重県](6名：ダンス)
※昨年：第3位
- ウ 第3位 クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス[東京都](8名：歌・ダンス)
- エ 審査員特別賞 田鶴浜高等学校[石川県](5名：演劇・歌) ※昨年：優勝
- オ 全日本ろうあ連盟賞 奈良県立ろう学校[奈良県]
- カ 日本財団賞 奈良県立ろう学校[奈良県]、鳥取聾学校[鳥取県](6名：演劇・歌)

(2) 審査方法

- ・ろう者の審査員3名：「手話の正確性・わかりやすさ」「演出力・パフォーマンス度」を審査
- ・聞こえる人の審査員3名：「総合的な表現力」を審査

(3) 表彰関係

- ア 優勝チームに優勝旗と賞状、個人に金メダル(砂のレリーフ)と副賞(タブレット型端末)を授与。
あわせて全日本ろうあ連盟から「全日本ろうあ連盟賞」を、日本財団から「日本財団賞」を

授与。

- イ 準優勝チームに盾、賞状及び副賞（鳥取県特産品）、個人に銀メダルを授与。
- ウ 第3位のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）、個人に銅メダルを授与。
- エ 審査員特別賞のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）を授与。
- オ 鳥取県内の最上位チームに、日本財団から「日本財団賞」を授与。
- カ 出場選手全員に、鳥取砂丘の砂を使ったフォトスタンドを進呈。

(4) 出場チームの状況

応募 47 チームから選出された予選通過 19 チームと開催地枠 1 チームの計 20 チームが出場
北海道：1、東京都：3、神奈川県：2、石川県：1、愛知県：1、山梨県：1、三重県：2、
京都府：1、大阪府：1、奈良県：1、鳥取県：3、福岡県：1、熊本県：1、沖縄県：1
計 20 チーム（14 都道府県）

3 佳子内親王殿下の御臨席

大会には佳子内親王殿下に御臨席いただいた。開会式においておことばを賜るとともに、全チームの演技を御覧いただいた。佳子内親王殿下の初めての手話によるおことばをいただいたこともあって、大会後、全国のメディアで多く取り上げられた。

大会前日の交流会においては、各出場チームの代表者と御歓談いただいた。



<佳子内親王殿下おことば>



<交流会の様子>

4 次回の開催について

来年度の第3回大会の開催については、今後、実行委員会において検討する。
今後、出場チーム、関係者等の意見をとりまとめ、次回大会に反映させたい。

5 その他

- (1) 大会前日には米子全日空ホテルにおいて交流会を開催した。
- (2) 大会の様子について、公式チャンネル（YouTube）にて生中継（ライブ配信）を実施した。
- (3) ホールでの観覧は入場自由としていたが、開場後間もなく場内満席となり、入場できない方々がでてきたため、前庭広場にモニターを設置するとともに、米子市福祉保健総合センター「ふれあいの里」にサテライト会場を設営し、大会の様子を放映した。
- (4) 前庭に「あいサポート・よなごマルシェ」を開設し、障がい福祉サービス事業所及び米子商工会議所青年部から 10 店舗が軽食（やきそば、クレープ等）やお菓子等を販売した。
- (5) 1階ホワイエで、鳥取聾学校写真部の作品のパネル展示、公式グッズの販売、鳥取県観光PRブースを実施した。
- (6) ゲストパフォーマーであるハンドサインの楽曲「♪友達」を本大会の公式ソングに採用し、大会のフィナーレで、出場者等とともに手話を交えて歌を楽しんだ。
- (7) JR米子駅におもてなしブースを設置し、手話通訳スタッフとともに会場案内等を行った。
- (8) 会場総合受付及びJR米子駅おもてなしブースに音声文字変換システムのタブレットを設置し、聴覚障がい者への対応の充実を図った。

県外における手話言語条例に関する取組

日にち	訪問先	大会名	内容	訪問者
H26 9/6	兵庫県	兵庫県聴覚障害者協同行事	講演	平井知事
10/6～7	札幌市	札幌合同研修会	条例・施策説明	足立 特別支援教育課長
11/2	山梨県	手話言語フォーラム	講演・パネルディスカッション	障がい福祉課担当
11/16	岡山県	県民ふれあい手話まつり	講演	平井知事
1/18	三重県	ろう教育フォーラム	条例・施策説明	日野 障がい福祉課長
1/24	埼玉県	手話言語条例に関する勉強会in埼玉	条例・施策説明	足立 特別支援教育課長
1/25	静岡県	ろう教育フォーラム	条例・施策説明	足立 特別支援教育課長
2/22	秋田県	手話言語条例からろう教育を考える集会	条例・施策説明	足立 特別支援教育課長
4/29	群馬県	群馬県聴覚障害者連盟・群馬県認定手話通訳者協会主催 特別講演会	講演	前 障がい福祉課担当
6/27	名古屋市	日本手話通訳学会	講演	前 障がい福祉課担当
8/2	石川県	手話言語にかかわる法整備を考える研究会	講演・パネルディスカッション	平井知事
8/27～28	東京都	手話言語法制定を求める全国集会	国会議員要請・決起集会・パレード	松田 福祉保健部長 鈴木 社会参加推進室長
8/28	東京都	手話言語法制定を求める全国集会 決起集会	挨拶	平井知事 松田 福祉保健部長 鈴木 社会参加推進室長
9/27	福島県	東北ろうあ者大会・東北地区手話問題研究大会	講演	平井知事 鈴木 社会参加推進室長
10/12	大阪府	大阪手話フォーラム	講演	鈴木 社会参加推進室長
11/8	山梨県	山梨県聴覚障害者大会	講演・パネルディスカッション	平井知事 鈴木 社会参加推進室長
11/15	山形県	山形県聴覚障害者研修会	条例・施策説明	足立 特別支援教育課長
12/11(予定)	東京・秋葉原	手話言語法制定を求める全国集会～冬の陣～・学習会	講演・鼎談	前 障がい福祉課担当
12/12～13(予定)	東京・秋葉原	情報アクセシビリティフォーラム2015	条例及び関連施策に係るブースを出展	障がい福祉課情報アクセス担当
12/13(予定)	東京・秋葉原	情報アクセシビリティフォーラム2015	講演・パネルディスカッション	平井知事

※その他、他県自治体・議会から条例に係る来県調査が多数あり。
(H27.4/22 高知市役所職員、6/29 大阪府職員、9/9 山形県議会議員、11/10 沖縄県議会議員、11/17 札幌市役所職員 など)

平成28年度当初予算要求(案)

【障がい福祉課】

①手話の普及

(単位：千円)

平成27年度当初予算		当初予算額	平成28年度 要求予定
区分	事業内容		
ミニ手話講座の開催	2時間/回程度の手話講座を県内各地で開催する。	1,630	継続
手話学習会等補助金	企業等が開催する手話学習会開催経費に係る補助金。(平成27年度～、10名以上のグループ単位(行政機関を除く)で開催する手話学習会も対象とする。)	1,520	継続
手話サークルへの補助	手話サークル活動を推進するための補助金。	600	継続
(H27新)手話啓発イベントへの補助	鳥取県聴覚障害者協会で開催予定である手話啓発イベント開催経費に係る補助金。	800	継続
聴覚障がい者福祉研修会への補助	聴覚障がい者福祉研修会開催経費に係る補助金。	65	継続
(H27新)手話バッジ制作	「情報アクセス・コミュニケーション研究会」での当事者からの意見を受け、ろう者から見て、手話のできる人が分かるように手話バッジを制作するもの。	1,094	廃止
合計		5,709	

②手話を使いやすい環境整備

(単位：千円)

平成27年度当初予算		当初予算額	平成28年度 要求予定
区分	事業内容		
ICTを活用した遠隔手話通訳サービス	平成25年度～、モデル事業として実施してきた遠隔手話通訳サービスについて、電話リレーサービス機能を附加して実施する。また、ICT技術を有効に活用し、生活に役立ててもらうため、ろう者向けICT学習会を開催する。	12,737	継続
手話通訳者トレーナー	経験の浅い手話通訳者等のサポートをしながら、現場での技術指導を行うとともに、手話通訳者等の手話表現・通訳技術向上を行う。	6,414	継続
手話通訳者設置・派遣	主催者の依頼に基づき、講演会等に手話通訳者を派遣し、ろう者の情報保障を行う。	30,518	継続
手話通訳者養成研修等	手話通訳者養成研修、現任者研修等を開催する。	7,313	継続
(H27新)手話通訳者指導者養成研修への派遣	2名の手話通訳者指導者(候補)を手話通訳者指導者養成研修に派遣する。	1,231	継続
(H27新)手話通訳者の頸肩腕症候群検診費用助成	手話通訳者等が頸肩腕症候群の検診を受けた場合に、その自己負担分を県が全額助成する。	324	継続 ※内容検討
(H27新)中国地区ろうあ高齢者大会への補助	平成27年10月、日吉津村で開催予定の中国地区ろうあ高齢者大会開催経費に係る補助金。	60	廃止
鳥取県手話施策推進協議会の経費	鳥取県手話施策推進協議会の委員報酬、旅費。	361	継続
とっとりの手話を創り、守り、伝える事業への補助	鳥取の手話を整理して記録し、地域の手話を残す取組を支援するための補助金。	100	継続
聴覚障がい相談員設置事業	3圏域に聴覚障がい者相談員を配置し、聴覚障がい者からの各種相談に対して助言、関係機関との調整・連携等を行う。	20,921	継続

平成27年度当初予算			平成28年度 要求予定
区分	事業内容	当初予算額	
			【参考】 〈新規〉音声文字変換システム (内容) 手話に慣れていない難聴者のコミュニケーションを支援するため、H27.9月に導入した音声文字変換システムの継続実施
合計		79,979	

③手話パフォーマンス甲子園

(単位：千円)

平成27年度当初予算			平成28年度 要求予定
区分	事業内容	当初予算額	
全国高校生手話パフォーマンス甲子園 非常勤職員(情報発信担当)	手話パフォーマンス甲子園に関する広報・情報発信を担当する非常勤職員を1名配置する。	1,808	継続

④聴覚障がい者センター関連経費

(単位：千円)

平成27年度当初予算			平成28年度 要求予定
区分	事業内容	当初予算額	
字幕入り映像の貸出事業等	字幕入り映像の貸出事業等を実施する。	4,975	継続

⑤要約筆記事業

(単位：千円)

平成27年度当初予算			平成28年度 要求予定
区分	事業内容	当初予算額	
要約筆記者現任者研修事業等	要約筆記者現任者研修・要約筆記者養成研修の開催、要約筆記者指導者養成研修への派遣。	7,865	継続
要約筆記者設置・派遣事業	主催者の依頼に基づき、講演会等に要約筆記者を派遣し、聴覚障がい者の情報保障を行う。	7,129	継続
合計		14,994	

【特別支援教育課】

①ろう児が手話を学び、手話で学習していく取組を進める。

(単位：千円)

平成27年度当初予算			平成28年度 要求予定
区分	事業内容	当初予算額	
手話講座の開催	教職員の手話技術の向上を図るため、鳥取県学校等で教職員向けの講座を開催	168	継続
聴覚障がい教育に関する専門研修会の開催	聴覚障がいに関する研修会の開催	160	継続
手話講座等への参加経費の助成	教職員の手話奉仕員等養成講座への参加経費を助成	385	継続
教職員の手話技能検定助成制度	教職員の手話検定料(補助率10/10、1回分)及び通信教育受講料(補助率1/2、上限1万円)の補助	4,098	継続

平成27年度当初予算			平成28年度
区分	事業内容	当初予算額	要求予定
手話通訳者の派遣	校内研修会、PTA会議、職員会議等への手話通訳者の派遣	308	拡充
			<新規>聴覚障がい基礎研修会の開催 (内容) 初任者・転入職員対象の研修会の開催
			<新規>コミュニケーション補助ツール(UDトーク) (内容) 鳥取聾学校・ひまわり分校・鳥取盲学校寄宿舎に「音声文字変換ツール」を導入
			<新規>寄宿舎への聴覚障がい者相談員の派遣 (内容) 寄宿舎を利用しているろう生の悩み等の相談に対応する聴覚障がい相談員を派遣
「ろう教育を考える全国討論集会inとっとり」への支援	「ろう教育を考える全国討論集会inとっとり」(H28.8月に開催)の運営等への支援を行う。	0	H27年度から継続して実行委員会のオブザーバーとして支援
合計		5,119	

②すべての児童・生徒が手話を学ぶ機会をつくる。

(単位：千円)

平成27年度当初予算			平成28年度
区分	事業内容	当初予算額	要求予定
(H27新) 手話普及推進員に関する研修	県内の各学校において、手話普及を推進するキーパーソンを指名し、ろうや手話についての知識・理解を深める研修を実施する。	30	継続
手話普及コーディネーター・手話普及支援員の配置	ろう及び手話に関する普及活動及び学習教材の利用促進の推進活動を行う手話普及コーディネーター(東部・西部に非常勤職員を各1名配置)及び手話普及支援員(ボランティア)を配置する。手話普及コーディネーターは支援員と地域の学校を繋ぐ役割を担う。	7,868	継続
聾学校幼児児童生徒との交流学習	鳥取聾学校と交流中の4校をモデル校とし、課題を整理し、今後の交流の拡大に繋げる。	200	継続
鳥取聾学校等教職員による出前講座の開催	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、その他各種団体への出前講座を開催	120	継続
手話ハンドブックの作成・配付(新1年生分)	小学校1年生に手話ハンドブックを配付し手話への興味関心を深める。	1,556	継続
			<H27.6補正から継続> 指文字タペストリー作成・配付 (内容) 指文字タペストリーを作成し、小学校に配付
合計		9,774	